

まちのクラブ活動「マチノ先生シリーズ」 趣味や特技を生かして活躍！誰もが街の先生に



住民参加型の街づくりが進む柏の葉キャンパスシティで今、「まちのクラブ活動」が盛り上がりを見せています。2008年から活動を始め、今では21のクラブに集まる総勢700人以上のメンバーが街づくりの原動力になっています。新たな展開として、住民同士が趣味や特技を使って習い事教室を開く動きも。得意分野を持つ住民が“マチノ先生”として活躍しています。

地域で楽しむクラブ活動

「まちのクラブ活動」は、家でも学校でも会社でもない柏の葉独自の住民サークル。東京大学と千葉大学が近接するキャンパスシティであることにちなみ、まちのクラブ活動と名付けられました。

活動内容は自由。住民主体の街づくり、つまり自分たちの街に「あったらいいな」と思うものを実現するための装置です。クラブの立ち上げも提案制で、メンバーさえ集まればすぐにスタートできます。生活の中でエコな工夫を楽しむ「柏の葉エコクラブ」や、街の中で養蜂を行う「柏の葉はちみつクラブ」など、現在は21のバラエティ豊かなクラブが活動中。各クラブの活動方針の企画や運営も、メンバーである住民が行っています。

もちろん、最初からすべてを住民だけで進めることは難しいもの。そこで柏の葉では、活動サポートを行う「まちのクラブ活動事務局」を設置。イベントや会議に使える「まちのクラブハウス」

を提供し、スタッフがクラブメンバーの問い合わせや相談に対応。イベントの告知や参加者の募集が必要な場合は、メールマガジンの発行やリーフレット作成などで協力します。

特技を生かして先生に

クラブ活動の中で、今最も盛り上がっているのが「マチノ先生シリーズ」。住民が先生となり、それぞれの趣味や特技を教える習い事教室プロジェクトです。

マチノ先生第一号は、柏の葉キャンパス駅前のマンションに住む野村志津江さん(61)。教えるのは音楽に合わせてリズムカルに体を動かす「リズム体操」で、その道30年の大ベテランです。

毎週金曜日に行われる教室は、いつも活気が充滿。「右手を横に伸ばして。ハイ、つぎ左！」と指導する大きな声に導かれ、20人ほどの参加者が音楽に合わせて元気よく体を動かしています。

柏の葉に引っ越してきてすぐに教室に参加したという佐藤亜子さん(70)は、「年を取ると出会いが少なくなるが、

この教室に入って知り合いが増えた」と笑顔です。

野村さんがマチノ先生になったのも「街にあったらいいな」を作るため。それまで同年代の人と交流する機会が少なかったため、幅広い年齢層が参加できるリズム体操を使って交流の場を作ろうと企画しました。



まちのクラブハウスには、キッチン付きの会議室も。お料理教室だって開けます。



リズム体操を楽しく踊るコツは、気分に合わせて音楽を変えることだとか。ちなみにこの日はサザンの「TSUNAMI」。

まちのクラブ活動「マチノ先生シリーズ」

広がる先生の輪

マチノ先生は、地域での交流が目的なので無報酬のボランティア。そのため、教室の参加料は低価な実費のみ。先生が住民という気軽さもあるか、各教室は毎回ほぼ満員になります。「あの人は和菓子が得意だから、お願いしてみるわ」と、メンバー同士の紹介で新たな先生も続々と誕生。古着のリメイクやタンゴ・ウォーキングなど、多彩な教室が開かれています。

まちのクラブ活動事務局の宮奈由貴子さん(31)は、「はじめは『私に先生なんてできるかしら』と不安を口にする人も、いざ始めると見事に先生を務めている。



野村さんの紹介で開かれた和菓子教室。人と人とのつながりが活動を広げています。

固く考えず、どんどん挑戦してほしい」と呼びかけます。

マチノ先生から派生し、地元商店の店長が先生となる“マチノ店長シリーズ”も始まりました。ここでは、店長もあくまで住民のひとり。教室で営業活動はせず、仕事で培った知識やテクニックを伝授します。熟練の技を持つ店長のファンになり、教室後に店舗に足を運ぶ受講者も多いとか。

課題は持続性

今後の課題は、活動を持続していくこと。クラブ活動の運営には、スタッフの人員費、告知用のリーフレット作成費など、最低限の資金がどうしても必要になります。



地元花屋の店長が寄せ植え教室を開催。ハーブを使った寄せ植えは、「見ても食べても楽しめる」と大好評です。

す。

宮奈さんは、「今は街づくりの一環として事務局の活動資金があるが、これは永続的ではない。700人以上になったメンバーのネットワークを生かし、企業のモニター事業などを受託できれば」と資金調達を検討中です。各クラブのメンバーは、趣味や年齢など属性が明確。その特徴を生かし、例えば「新しいキッチン进行测试するために料理好きの主婦を集めてほしい」という企業から仕事を請け負う計画です。クラブメンバーにとっても自分の特性を生かした楽しいアルバイトになり、企業、事務局すべてにWin-Winの関係ができるはず。

地域のコミュニティ活動で、資金がなくなり活動がストップしてしまうのはよくある話。でもこうした活動が持続すればとても素晴らしいことです。

マチノ先生をはじめとするクラブ活動は毎週のように開催されていますので、まずは一度体験してみてもいい。

まちのクラブ活動の詳細情報、お問い合わせはこちらまで

[WEBサイト] <http://www.kcvn.net/>
[Eメール] info@kcvn.net

キーパーソン・トーク

柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)の市民活動担当として、まちのクラブ活動事務局を中心に住民交流のきっかけ作りを進めています。初めは事務局が中心になって仕掛けるイベントが多かったですが、最近ではマチノ先生のように住民発案で進む企画も多く、手ごたえを感じています。

今後は、地域に必要なサービスを事業化する活動を始めたいです。これから街の人口が増えていく中で、託児や高齢化に伴う介護などの問題も増加し、それらを解消するケアサービスが必要になります。

今検討しているのは、地域に役立つコミュニティビジネスを起こす住民のサポート。起業サロンのような場を設けて、そのサービスが街にとって必要かどうかを住民が投票する仕組みを考えています。そこで選ばれたサービスは需要があるはずなので、資金調達などで協力し事業化を支援します。

最終的な目標は、何か困った課題が見つかった時に、地域で自律的に解決できるようなコミュニティづくりです。今からこうした交流があれば、例えば高齢化によって一人暮らしのお年寄りが増えたとき、「見守り訪問を始めようか」と自発的な連携が生まれてくるのでは。そんな、「地域力」をこの街で育てていきたいです。



宮奈 由貴子 氏
NPO 支援センターちば 事務局長
柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK) 市民活動担当ディレクター

□編集後記□

リズム体操に参加して印象的だったのは、終了後の出来事。教室の感想を聞こうと参加者に話しかけると、「みんなで片付けるので、その後にしてください」と掃除を優先。自分の間の悪さを反省しながらも、こうした責任感が自由なクラブ活動を成功させる秘訣かな、と思いました。(蛭川)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK) 広報担当 小林、蛭川
〒277-8518 千葉県柏市若柴字元堂178-3 柏の葉キャンパス駅前148街区3画地
TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688
E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB <http://www.udck.jp>

柏の葉
アーバン
デザイン
センター

UDCK